

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 10 月 9 日現在

機関番号：32688

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24330224

研究課題名(和文)小中一貫教育の総合的研究

研究課題名(英文)Total study about the unified elementary middle school education

研究代表者

梅原 利夫 (Umehara, Toshio)

和光大学・現代人間学部・教授

研究者番号：10130858

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,900,000円

研究成果の概要(和文)： 拡大し法制化が進められている小中一貫教育のメリット、デメリットについて、発達心理学、教育課程論および、教育制度論および政策論の立場から総合的な研究を行った。では、小中一貫校と非一貫校の児童・生徒を対象に、同一条件で比較したアンケート調査を行った。一貫校において、特に小学校段階で精神的健康、コンピテンスなどにおいてネガティブな結果が検証された。

研究成果の概要(英文)： We researched about the elementary middle school education to which legislation is advanced from the view point of(1) developmental psychology,(2) curriculum theory,(3) education system theory and a policy. Especially we considered about the merit and demerit of the unified elementary middle school education by the .

(1) In the students in elementary school,we inspect that a negative result put it in the mental health and the competence by stage of elementary school in articular in the unified elementary middle school.It cause that 5,6th grade students can not develop their competences in the unified elementary middle school.

研究分野：教育課程論

キーワード：小中一貫教育 教育課程論 教育行政学 発達心理学 学校間移行 学校統廃合 生活指導 自己有能感

1. 研究開始当初の背景

小中一貫校制度の法制化について、中教審答申では見解が分かれ両論併記となったが、自治体レベルでは施設一体型一貫校の新設が増加していた。

2. 研究の目的

小中一貫校の教育的効果および児童生徒にもたらす影響について、心理学及び教育学の立場から学際的・多角的に検証する。

3. 研究の方法

一般の小中学校と一貫校の児童生徒を比較対照した大規模アンケート調査により、一貫校の教育的効果とデメリットを検証する。学校調査、聞き取り調査により教育行政学、教育社会学、教育課程論の立場からも検証する。

4. 研究成果 都筑、高坂、岡田が13年度に実施した、心理学の手法に基づいた全国の小中一貫校・非一貫校の児童生徒を対象としたアンケート調査* (一貫校、小7校・1248名、中7校・1021名、非一貫校 普通の小学校、中学校 小43校・3345名、中17校・3183名、計8789名が対象)は、施設一体型小中一貫校と一般の小学校と中学校の児童・生徒の意識を比較した大規模アンケート調査として、今後経年変化を検証する必要があるが、1つの仮説として貴重なデータを提供するものの1つであると思われる。同調査は、「中1ギャップ」といったような、児童・生徒の学校適応・精神的健康のさまざまな項目について、小中一貫教育が有効なのかについて、施設一体型一貫校と非一貫校を比較して検証したものである。結果を端的に述べると、「学校適応感」、「精神的健康」、「コンピテンス(自分は何でもできるといった有能感、自信など)」、独立性、協調性など複数の項目において、小学校学校4・5・6年の時期に一貫校の数値が非一貫校を下回る傾向が見られた。

図1 一貫校と非一貫校の児童生徒の「自信」

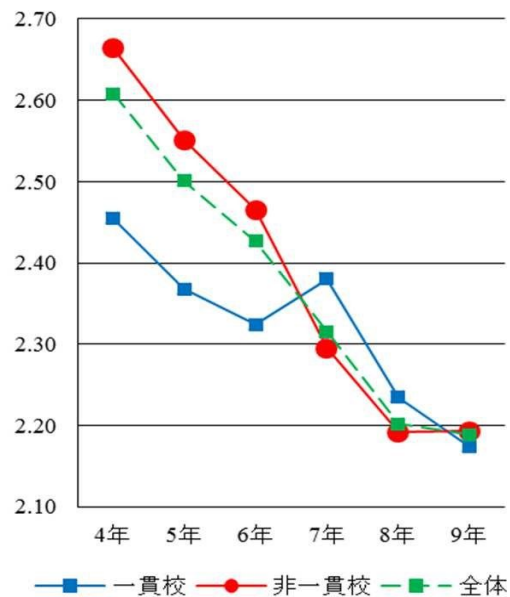
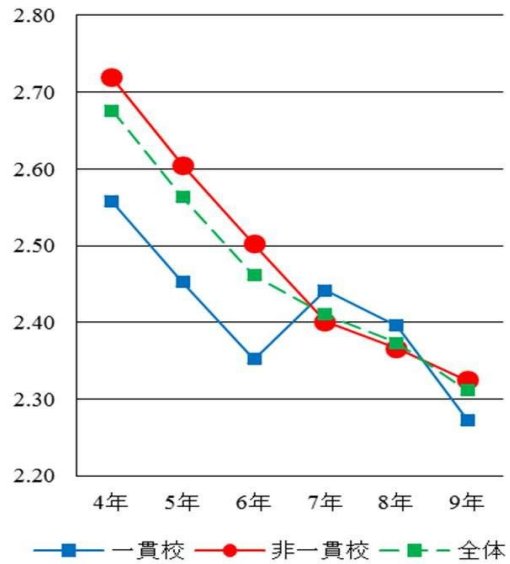
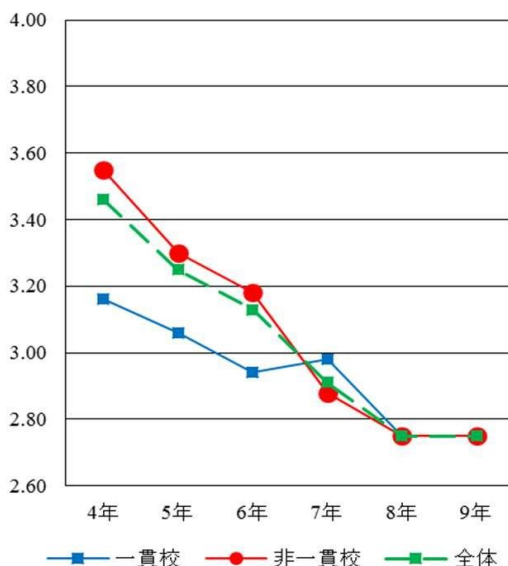


図2 「コンピテンス」の「運動」

図3 「コンピテンス」の「自己価値」

例えば図1, 2, 3はそれぞれ、児童生徒の「学校適応感」の「自信」の項目、および「コンピテンス(自分の能力に対する有能感)」の「運動」および「自己価値」の項目について、一貫校と非一貫校の、4, 5, 6年生および中1, 2, 3(一貫校の場合、7, 8, 9年生)を比較したものである。いずれも4-6年生の小学校段階で一貫校が低く、中学で両者が一致する傾向が見られる。また、「コンピテンス」の「学業」の項目以外では、ほぼ同様の傾向が見られる。

一般的に、「精神的健康」や「コンピテン
ス」などの項目は、児童期で高く、思春期に
なるにつれて低下して、青年期に再び上昇し
ていく傾向があるとされる。児童期から、プ
レ思春期、思春期を迎え、子どもの「自信」
や「自分は何でもできる」といった「コンピ
テンスは低下していくのが正常な発達とい
える。非一貫校では、そのような一般的傾向
が見られるが、一貫校の場合、それらが小学
校高学年からすでに低下している。これは、
ある意味「中1ギャップの解消」といえなく
もない。このような傾向が出現する理由とし
ては、一貫校で小学校高学年に成長・発達
の場が保障されにくい、といった前述の要因
意外に、同一空間に小学生からみたら大人に
見えるような思春期の中学生が生活するこ
とといった環境が心理的に及ぼす影響があるこ
となども推測される。

いずれにせよ、このような検証を積み重
ねた上で、子どもに対するリスクがあれば十
分な対応を準備した上で小中一貫校の法制
化を進めるべきではないだろうか。財政と効
率化の理由に基づいた拙速な制度導入は避
けるべきであろう。このような課題があるこ
と前提に、制度としての小中一貫校が持つさ
まざまな課題について十分に調査を重ね、さ
らに果たして教育的効果があるのか慎重に
検証を重ねた上で、実際の制度的導入を行う
べきなのではないだろうか。また、第4章で
述べたように、アメリカのシカゴ市における
小中一貫校は、統廃合の方策としての大規
模・過密な学校であり、プログラムを削られ
る「安上がり」な学校とされる傾向が強かつ
た。そこでは、入試選抜のある高度な内容を
教える小学校は、初等教育に限定した200人
程度の規模の学校として、小中一貫校とは別
のトラックになっていた。国際的に見た小中
一貫校の学校体系における位置づけ役割や
制度についても慎重に検証していくことが
求められる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

山本由美「小中一貫校と学校統廃合を考
える」『クレスコ 2014年10月号』大月書店、
pp.21-pp.23

〔学会発表〕(計6件)

日本教育方法学会 広島大学 2014年10月
12日 梅原利夫、金馬国晴、都筑学

日本教育心理学会 2014年11月8日
神戸大学 高坂康雅、岡田有司、都筑学
「小中一貫校・非一貫校における子どもの適
応・発達」

日本発達心理学会 2015年3月21日
東京大学 高坂康雅、岡田有司、都筑学
「小中一貫校における子どもの発達・適応問
題を考える」

日本教育法学会 2015年5月30日
法政大学 山本由美「小中一貫校(義務教育
学校)の教育制度論的課題」

日本教育学会 2015年8月29日
お茶の水女子大学 梅原利夫、岡田有司、金
馬国晴 ラウンドテーブル「小中一貫校の総
合的研究」(予定)

〔図書〕(計2件)

山本由美「学校統廃合と学校選択」市川須美
子、成嶋隆、世取山洋介編著(47人中18番
目)『教育法の現代的争点』2014年 法律文
化社 pp.104-pp.107

佐貫浩「保育園で今何が起きているのか、
品川版『保育改革』待機児童の現実」2014
年 花伝社

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

梅原利夫 (UMEHARA, Toshio)

和光大学 現代人間学部・教授

研究者番号: 10130508

(2) 研究分担者

山本由美 (YAMAMOTO, Yumi)

和光大学・現代人間学部・教授

研究者番号: 00442062

佐貫浩 (SANUKI, Hiroshi)

法政大学・キャリアデザイン学部・教授

研究者番号：60162517
高坂康雅 (KOUSAKA Yasumasa)
和光大学・現代人間学部・准教授
研究者番号：0055553
額賀美紗子 (NUKAGA, Misako)
和光大学・現代人間学部・准教授
研究者番号：60586031
岡田有司 (OKADA, Yuji)
高千穂大学・文学部・准教授
研究者番号：80282416
船橋一男 (FUNABASHI, Kazuo)
埼玉大学・教育学部・教授
研究者番号：80282416
金馬国晴 (KINMA, Kuniharu)
横浜国立大学・教育学部・准教授
研究者番号：90363277

(3)連携研究者

都筑学 (TSUZUKI, Manabu)
TSUZUKI, Manabu)
中央大学・文学部・教授
研究者番号：90149477